

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472100864	事業の開始年月日	平成15年6月1日
		指定年月日	平成21年4月27日
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム鎌倉常盤の家		
所在地	(248 - 0022) 神奈川県鎌倉市常盤 6 1 5 番地 3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27 名
		ユニット数	3 ユニット
自己評価作成日	平成23年1月21日	評価結果 市町村受理日	平成23年3月24日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1472100864&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「心が休む」ことを目指しています。 課題は「集団力学」ですが「仲間感・ヨコ関係」をもって頂くことに重点をおいたケアをしています。 「緊張・タテ関係」を柔らげるため ・笑いの多いこと ・説明(混乱の元)を最小限にすること ・受容、傾聴技術を身につけること を心がけ全員がメンタルケアに取り組んでいます。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ヴァ双ファースト 3階		
訪問調査日	平成23年2月22日	評価機関 評価決定日	平成23年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の概要> グループホーム鎌倉常盤の家は、JR横須賀線鎌倉駅西口の鎌倉市役所前からバスで約5分、仲の坂バス停前に鉄筋3階建3ユニットで平成15年6月開設し8年目となります。市役所通り沿いに面し北側は小高い里山が控えた静かで落ち着いた環境にあります。 <優れている点> 心理的な面の活動に力を入れ、利用者の緊張や不安を極力緩めるような工夫がされています。その一つに、大家族で生活するための集団力学に着目し、入居者同士の仲間づくりや助け合いのグループ活動を大切にしています。例えば習字は全員で行い、出来ない人にも参加できる工夫をしています。全員で外出したり、仲間づくりのための居間の配置換えや、テーブル配置の工夫でも効果を出しています。開設後8年目となり、地域からの認知度もあがっており、近隣の方が訪れて福祉の相談をしたり、見学を希望する方が増えてきています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム鎌倉常盤の家
ユニット名	1号館

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みの地域で人生を過ごすため、生活のリハビリの場として「峠の茶屋」のような「心と体のお休み処」機能をもち下山体力に充溢していける日々を援助できるように支援している。	理念の「心と体のお休み処 峠の茶屋」は職員全員で話し合い作ったものです。昨年管理者が代わりましたが、理念を受け継いで運営をしています。職員は理念を体で覚えており、利用者が体調を崩したり、変化があった時、理念に戻るようになっています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩、月一回の道普請（会員）、八雲神社祭、事業所の夏祭り、ラジオ体操など、ごく当たり前のこととして人々と交流しながら、事業所が地域の一員として、かつ認知症施設の処点になれるよう日常的に交流している。	地域の行事には全てに参加しています。地域のケア拠点となるよう、関係者のネットワーク構築に意欲的です。近所の方から福祉相談や見学希望が来ており、丁寧に応えています。踊りのボランティアの方々には終了後認知症の説明をしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会ある毎に、認知症理解や支援方法を発信している。地域家族会の会員となり、見守り、適切アドバイスを心がけ「かけこみ寺」になれることを目的として地域に開いている。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では広く情報が持ち込まれるので視野を得て第三者評価の結果などとすり合わせ、ニーズや改善点が浮かびあがり進むべき方向が望遠でき、サービスの向上に活かされている。	2ヶ月に1回、事業所の活動や地域の行事情報、認知症の説明等を情報交換しています。認知症の自己診断等の説明資料を作りました。災害時には駐車場スペースの提供、町内会長からは困った時はお互いさまの協力関係を申し出て頂いています。	自己評価及び外部評価の結果や目標達成計画の内容も報告し、事業内容をさらに理解して頂き、相互の協力関係の構築に向けた理解者を増やしていくことも期待されます。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村は地域密着型として広範囲に積極的に集会を企画しているので毎回出席することで介護保険の担い手としての意識が高まり色々の工夫などが交換され切磋琢磨しながら、協力関係を築いている。	サービス事業者担当会議に参加したり、地域包括支援センターの講座にも出席しています。介護相談員を活用し、入居者の不満や改善点を話し合っています。生活保護の介護認定介助も行って、利用者の居場所としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠はしているが、施設内の利用者さん達は皆、一人ひとりが自由に行っている「緊張をあたえない配慮」のケアでは客観的に - のことでも + 解釈なので拘束の入る余地はない。</p>	<p>身体拘束ゼロを宣言しています。特に無自覚・認識不足になりがちなスピーチロックの排除を徹底し、職員から書面を提出してもらい、職員間で注意しあっています。玄関の鍵は安全上施錠していますが、外に自由に出入られるように見守っています。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修などで学ぶ機会をもち「気付き力」も高まってきている。課題は心理的虐待で、無自覚・認識不足などを含め「言葉とこころの勉強会」を始めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者に「成年後見制度」を利用している方がいる。推進会議のメンバーでもあり現場に面接にも見えるので活用されている。又「どういふときに使うのか」を理解しケース対応できる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時の面接場（緊張場面）では「かすかな疑問」などが潜在になりやすいので、「家でもよく読んでから、些細な疑問を見つけてください」と必ず添えている。加算では説明会を開いた。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族はよく訪れるので親しい関係となり本音を頂くこともあるが第三者にも通じるように玄関に「お声ポスト」や連絡先の掲示があり運営に反映できる仕組みがある。アンケート実地あり。</p>	<p>家族が言いやすい環境づくりをしており、来館時に不安や疑問点を伺い納得を得ています。キーパーソンの意見聴取やお声ポストの設置、アンケートも行っています。苦情やクレームは無く、利用者と家族間を修復したケースがあります。</p>	<p>他の苦情事例を分析するなど、現在の対応体制の再確認とレベルアップのための次の段階に移る事が期待されます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は認知症接遇に専門性【実績】を有するが現場に反映させるには職員の意見や提案は最重要となり日勤、夜間帯を問わず関り運営全体に反映させるように努めている。	自己評価や目標達成計画は職員の意見を入れて作成しています。毎週のフロア会議では、個別課題を集中検討し、重要な課題は繰り返し論議しています。管理者は現場に入り、直接意見交換をしています。テーブル配置でも効果が出ています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準では十分とはいえないが、社員旅行、忘年祭、院内発表会、院長杯、観光ホテルの優待、施設案内など各自が向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者からは毎週の朝礼において全方位からの訓示がある。初期研修、年次研修のほか外の研修参加も奨励して機会を確保し働きながらトレーニングすることを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は遠方であるが、町内会の会合や地域の祭りなどで交流しネットワークづくりや勉強会などを積極的に指示、支持してサービスの質を向上させていく取組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では「相当の緊張把握」をスタートとしている。この上において傾聴受容の技術が必要になり、不安内容を受けいれることで信頼を頂き仲間づくりを重点に安心の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族はこれまでのケアで疲労や困惑の極にいる。初期では「早くなれて欲しい」が大方の希望であるが不安や要望などをよくよく傾聴しながら関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に生活履歴や個性などを聞いていて事業所の理念と家族の要望とのすり合わせをおこない、まずは家族が必要としている支援を受容し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的ではタテ関係となり機能も減退してしまう。極力ヨコの関係から「共に暮らす生活感」を大事にして理念に添った関係を構築しながら「大家族感」で過ごしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆をことさら大事にしている。家族は生活の場にいなくても心はいつも一緒でありここを意識することで、ケアもよく入り、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や面会等を本人の希望に添える様支援している。馴染みの方々も訪問しやすいように親しみを込めた配慮しながら外出の援助をしたり、関係が継続していけるように支援している。	入居者同士の仲間づくりや助け合いのグループ活動を大切にしています。例えば習字は全員で行い、出来ない人にも参加ができる工夫をしています。全員での外出、病院帰りの食事もし楽しみにしています。美容師や訪問マッサージもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームの壁は「集団力学」であり殆どの症状はここに起因をもつ。「仲間感の構築」のための談話構築は当事業所のサービスの要であり、苦慮しながら孤立者を出さない支援をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても退去時には「いつでも遊びに来て」などの言葉を交わし、また街でもよくお会いするので経過などを伺い相談をうけることもある。入居時と変わらない関係がある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の方は言葉で表現する事が不得手であり意向の把握は傾聴手段、表情や動きからその人の世界理解に努めると困難は少ない。集団力学のなせる技も散見される中で本人本位を検討している。	心理学の面から「利用者が分かる」、「介護者が思いを汲み取る」を目標に、短い単語で会話しています。日常の会話で利用者の緊張を解きほぐし、家族からニーズを教えてもらい、思いや意向をそのまま記録するようにしています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時と施設に入ってから環境の違いや生活感が変わってくるので、混乱、困惑を踏まえた上でサービス利用の経過を「何故それが必要だったのか」など検討し次につなげている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりには個性を有し力にも多岐に差はある。それらが調整できてくるのは「仲間感の構築介入」が有効であり、個人の力の所在が把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「本人がよりよく暮せる」と機能の低下も遅くフロー全体も良い循環になるので関係者からの意見は最重要になる。課題解決には欠かせなく介護計画に織り込まれている。	毎日の生活状況記録、毎週のユニット会議で利用者の現状を把握し、評価表でケアプランの達成状況を評価しています。家族の意見を聞き、月1回のサービス担当者会議でケアプランを作成しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は介護記録、業務日誌、ADL記録などに記入し更に気づきを記入するシートもあり、実践や介護計画の見直しなどに活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多様性 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症者では本人の状況の把握やニーズは介護側の主感が含まれ易いが家族は独立生活から積極的にニーズなどを伝えて下さるので柔軟な支援で事業所は視野の広がりからもサービスの巾を増やしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉センターほか地域資源は実に豊富にあり事業者の活用だけでなく地域の方からも訪問など声かけがあり、「ハーモニカ愛好会」の演奏など利用者の生活に色どりを与えている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては入居前に希望など伺い継続している。カルテなど長いので有効であるが入居数ヶ月で「事業所の協力医に」となる傾向はあるが適切医療との関係で支援している。	入居後はほぼ全員、近所の協力医にかかりつけ医を変更しています。最近歩行が厳しくなった利用者が多くなったため、協力医の訪問診療を受けています。内科、歯科は月2回、精神科医は必要に応じて訪問を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職とは受診時や訪問時での接触であるが多くが馴染みの関係であり同時に外からの視点でもある。相談や情報交換者どうしとなっていて適切看護を受けられるような支援になっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時では本人の為に支障がないよう綿密に情報交換している。医療と福祉の貴重な接点であり、時代のニーズでもある。十分に意識した協働関係づくりをしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に対する方針を伝え共有している。「医療と福祉に囲まれています。ネットワークもありこの中で支えていきましょう。本部にもあります」という話をしている。	入居時に重度化や終末期に対する「最終的には医療サービスに」という事業所の方針を利用者や家族に説明し同意を得ています。職員は事業所でできることを十分理解し、事業所の方針を共有しています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	備えとしては、『急変は黄色信号の見落とし』という認識から防止に重点をおいている。事故発生時はマニュアル整備では不十分であり、迅速対応のためにはイメージトレーニングは欠かせない。形式依存は危険の認識がある。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難所が遠いので、辿り着く過程に危険があり、我が施設は非常食・ケア実績・駐車場もあり地域の方々は「常盤さんに避難しよう」という声もあり実際に向け推進会議でも図っている。	消防署立ち会いの下、避難訓練を行っています。避難に有する時間は概ね4分半です。また、折に触れ職員間で避難方法のイメージトレーニングを行っています。食料備蓄は1週間分あります。災害時は事業所の駐車場を近隣の避難場所にする案が運営推進会議で出ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃は「無意識」「無責任」言動等が自覚に上らないこともある。この中では親切が他者侵害になってしまったり熱心が人格上の配慮を欠いてしまうこともあり、互いに学びあっている。	利用者一人ひとりの人間らしさを自然に尊重できる介護を目指し、常々介護職自身の発言、動きの見直しを行っています。利用者の気持ちを配慮しながら、利用者本人のやる気を引き出す声かけを心がけて対応しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	親切が自己決定を覆ってしまうことや希望の表出を妨げる事のないよう細心している。この為には受容技術で本人の自由度が確保されていなければならず自己決定を働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団では「アッチ立てれば コッチ立たず」であるが『決まりの硬直性』は認識している。遠くて早い道は「仲間感の醸成介入援助」であり、これが個人の満足に繋がりやすく、希望にそって支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔、身だしなみに気を配り、気持ちよく過ごして頂ける様、支援している。課題としては「地味派」が「おしゃれ派」を非難してしまう傾向もあり苦慮は多いが本人本位に行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる為には『ストレスの軽減』条件が必須である。快刺激になれる介護職の資質が基本であるが自炊はこれらの難点を克服できる格好の時間であり共に準備や片付けをしている。	基本的には配食サービスを利用していますが、週に1回～2回は利用者の希望を取り入れた献立を考え、利用者と一緒に料理をしています。南瓜の煮物、ソファに座っての調理、配膳など利用者ができることを手伝えるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人によって食べ易くする切り方、盛り付け、味付け等に工夫しカロリーや水分の確保をしている。朝などは「まず何々」という習慣もあり個人史・状態の勘案など柔軟に対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きするが歯科受診はない。義歯が噛み合わなのだらうという想定の際は家族相談をしたり、口腔状態に応じてポンポンブラシ（球形）の活用などを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らすのはメンタルケアトレーニング時間確保のため必要でありリズムをつかんで声かけしたり誘導を拒否される理由を学んだりして自立にむけた支援に取り組んでいる。	排泄のリズムを捉え声かけし、自発的にトイレに行くことができるよう支援しています。建物内や庭内で歩行力を高め、自分一人でトイレに行けるようになった利用者もいます。トイレ誘導は様子に気が付いた職員が支援しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘【不快】の影響は理解している。飲食物の工夫や運動（ラジオ体操・散歩他）に加え加齢やストレスや深夜での排泄意からも勘案して予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	タイミングは実情（支援の多岐・3：1・8時間勤務）から困難。入浴は毎日の原則から「カラスの行水派」「面倒派」「好き派」ほか好みは多彩であるが9人なので個々に応じた支援をしている。	利用者の体調を配慮しながら、毎日午後入浴を基本としています。入浴中はその人らしい自立を考えた支援を行っています。風呂桶は大きく、2～3人の仲間同士で入浴することもあります。入浴を嫌がる利用者には、原因を取り除くように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>「安心なる境地」になれる要件は難しいが、光・音・思考・その人のトラウマなど不眠を誘う要件の排除に配慮して笑いの多い団欒構築に励み、よく眠れるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>目的や副作用などを一覧表にして支援している。介護が発信することで医療が薬を考えることも多いので責任は重く症状の変化・経過などの確認につとめながら服薬の支援をしている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>役割をもって頂くのは・責任感・義務感・他者の非難等、落とし穴はある。生活暦からも能力と気持ちが齟齬をきたさない様な配慮や勘案で生活総体が良いものであるような支援をしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>午前には散歩が日課になっている。普段は行けないような場所は家族、知人、ボランティアと協力しながら現地の状態（エレベーター・トイレ・近くの医療など）を調べ支援している。</p>	<p>外出は気候が良ければ週4～5回出かけています。散歩や買物のほか、駐車場横のベンチで日向ぼっこを行っています。日向ぼっこ中には付近の子ども達も寄ってきて一緒に楽しんでいます。希望が出ると、江ノ島や展覧会などに出かけています。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望や力に応じお金を所持し使えるように支援しているが、容易に仲間にあげる、しまい場所を忘れ被害感にさいなまれる等はある。大きいお金はその時さりげなく渡すなど工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	所内の電話は自由に使って頂いている。手紙は書けるようにパソコンで独自の便箋をつくってお渡しするも「もったいない」でしまってしまうが、ポストに同行するなど支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は一般的に生活者にとり不快感がないように工夫はされている。陽光、風通し、カウンター式台所、緑が教える季節の窓は利用者にとり居心地よく映っていると考えている。	広々としたリビングは、落ち着いた雰囲気の中にテーブルやソファが置かれています。壁にはカレンダーや時計、外出時の写真、習字の作品等が飾られて大人の雰囲気を持ったアットホームな雰囲気です。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室であり独りになれることはできる。窓際にも卓と椅子を置き、群れが嫌なときでも居場所があるように配慮している。卓の配置には相当の検討を行う（仲間感の構築は容易ではない）		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族には「お足元を考え今までと同じものを」と案内している。利用者は自室に仲間を招きいれたりして、睦ましい光景も見られ往時からの継続性に配慮、支援している。	居室には衣装棚と鍵のある洗面台が設置してあります。またドアの窓は日本風の和紙で目隠ししてあります。毎朝の掃除で整理整頓されています。ベットや机などの上に仏壇があったり、写真や人形が飾られています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一般的で食事準備、洗濯、掃除など自由にできるように配慮されている。大正昭和初期の方は裁縫をよくされ洗濯干し（当時は乾燥機ない）などが出来るように工夫している。		

事業所名	グループホーム鎌倉常盤の家
ユニット名	2号館

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念の「心のお休処」「峠の茶屋」を共有し、地域でのんびりとした生活を送って頂けるよう、そのためには何が大事かを検討しながら、実践につなげている。(緊張の緩和)</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>ファミレスの利用やお弁当屋さんへ配達を敢えてホームの中まで入っていただき、様子を見て頂いたり、会話したりと工夫しながら交流している。職員が全員、近隣なので「地域家族」みたいである。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>家族・ボランティア・他来館者はケアの様子を見られて質問もあり、交流の機会も少なくないので、随時の機会に理解や接遇などを伝え地域に貢献している。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では、評価と食事についてのアンケートの結果を配布し、取組みについて話し、出された意見をサービスに活かしている。メンバーからは「大分学んだ」の感想も頂く。</p>		
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村企画の会合に毎回参加し、回を重ねる毎に関係者らと馴染みの関係が築かれている。介護の担い手集団としての意識も高まり、更に協力関係が強くなるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>禁止の対象となる具体的な行為の初期研修にあるが、「緊張感がない生活」では拘束の必要が発生しない。実践において功を奏している。「心理的(言語)拘束」では「無意識」無自覚の領域として学んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修で学んでいる。自覚されにくい「心理的虐待」では職員同士が及びそうになるときは注意しあっている。「傾聴」「受容」では、「心理的虐待機会」はその学習頻度に比例して軽減する。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者に「成年後見制度」を利用している方がいる。推進会議のメンバーでもあり、現場に面接にもみえるので制度の理解や活用がされている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明を行い、「家でよく読んで、どれ程些細な疑問でも連絡下さい」と必ず付け加えている。今のところ、お尋ねはないが、来館時には積極的に不安や疑問点を伺い、理解・納得の徹底を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日本民族の「匿名好き」はあり、玄関に「連絡先の明示」「お声ポスト」があるが、足りるとは考えていない。意見や要望が言いやすい関係づくりこそ肝要と考え実践し、家族から「散歩での共感」など貴重な意見頂く。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「買出し先業者の選定」「仲間つくりのための居間の配置変え」「困難事例への工夫」等々、職員は日常的、積極的に運営に挑んでいる。結果が良好であることは、利用者への「自由度の確保」と同じ。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	保険整備、厚生福利費、社員旅行、忘年祭での援助、院長杯、観光ホテルの割引、現場の自由度への理解、他施設の積極的案内、研鑽費支給など整備につとめている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して法人内外の研修への呼びかけがある。有料会議室の確保にも理解があり、代表者は遠隔地であるが「日次報告書」でケアの実際をよく知り、会議では「皆のケアノウハウを地域に」と。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者が直接、多くの取組みをしている訳ではないが、管理者や職員が同業者と交流して向上できるように指示し、援助している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約以前に館の様子を見に来られる時の自己紹介に「私はソコ（館の窓を指し）にすんでいるの」から始まると「まあ」と目が輝き、実際に同じ町内会であることも多く会話が弾み良いスタートがきれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用相談の段階では不安や要望を丁寧、丹念に伺う。「傾聴」「受容」態度はケアの基本でもあり、理念の唯一の実践手段でもある。信頼関係は「時の賜物」であるが、誠意誠実を旨としている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>認知の方は「挨拶」が最後まで残る機能であり「場が変わったことの適応性」を示される。これを踏まえての、その場の支援の見極めは困難でなく他のサービス利用も含め家族の要望に応える対応をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一方性（タテ関係）は理念の逆走であり、「残存機能の発露」はみられない。同じ目線で笑顔を送る関係に努力している。「高齢者が若者（職員）に教える大家族」をめざしてこの場面は多い。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>「24時間いつでも連絡下さい」「いつでも気軽にいらして下さい」を伝え、職員と家族の壁をなくす努力をしながら、本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方々は症状に戸惑いを隠せないが、理解や対応の仕方を伝え、未永い交流をお願いしている。場所へのお伴では職員、家族、ボランティアとも打ち合わせを専門性から綿密にし、支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームの壁は症状のことでは無論なく「集団力学」である。入居時から永年までサービスの筆頭は『仲間感を抱けるための配慮』からの工夫の積み重ねであり現に利用者同士が自発的に援助していたり歌を唄ったりしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ市町村内にいるので顔を合わせることも多くいつでも隣人であり、近況や相談を含め、雑談も多く、入居時となら変わらない関係で過ごしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「思い・意向」などは言葉より表情や動きの方が雄弁であるが、感じとる努力をして、職員間で相談し合いを行っているが、わけても「傾聴」は本意に触れられ、意向の把握や実践にむけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や馴染んだ家族からも随時情報を頂き援助が進む場合は多い。経過ではその時々適切に努力しているが、個性的な道の歩み方がみえてくることで、明日につながるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの世界が違うのは自明のことであるが、心身状態、有する力でサービスは計画され、さらに「日内変動性」など気分や感情を大事にしながら、その人が「生きる」ような把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話あい、より良く暮して頂くために現状を把握し反映させながら、計画作成している。本人を思う親族のアイデアは活かしやすく貴重な計画資源となっている。例「こういう時・・・母は・・・」等。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は「介護記録」にとどまらず他のことも記録して話し合い、見直しを含めた実践につなげ、更に経過などを共有しながら、成果に挑んでいる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多様性 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ストレスの把握は『気分の変動』軽減に役立っている『気分』は生活の支配者であり安寧や快生活の基であるので介護側の柔軟性が求められる。思考の柔らかさや視野の広がり研修の中核にある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社祭・夏休みラジオ体操・バザー・道普請（会員）・商店など地域の人々と交流しながら、病前生活と差ほどかわりのない生活ができるよう危険に配慮しながら、楽しむことができるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族希望を伺うと「皆さんの方がよく知っている」や、医療側もよく知っている介護側に尋ねることも多いが、本人及び家族本位で医療と関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	目の前が協力契約医院であり日々の散歩コースにもなっていて看護職とは隣人関係になっている。利用者は既に馴染んでいてよき理解者でもあり訪問他十分に看護支援を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療ができるように介護者も病院に足を運び、情報交換や相談など関係づくりをしている。懇親的関係を築き医療側もサマリー以外のことを聞いてくれ、協働している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化」「終末期」の体制が本部に整っているため、十分に説明と方針を共有し、地域の関係者とも共有してチーム支援となっている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変を黄色信号の見落としと捉えていてスキル向上には取り組んでいるが、不十分である。しかし乍ら医療との連携は簡潔な情報を適切に入れる等、スムーズに流れている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練とともに、利用者が避難できる方法を全職員が身につけ、又地域が連絡網を作っている段階であり推進会議では積極的な意見を頂く等、協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などは、耳元で小声でさりげなく言葉かけし、失見当行為には『その方の世界』として尊重・受容し、言葉かけの工夫をしながら、プライバシーを損ねない対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何を伝えたいのか、拒否しているのかを正確に把握することに努め自己決定がしやすいように「緊張緩和」を旨とした働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者との会話や表情からの気分や思いを大切にして、その日を本人ペースで過ごして頂きその中で必要な介護がスムーズに入るような関係づくりをしながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんがリラックスし、その人らしい身だしなみ、おしゃれが自然にできるような雰囲気を用意して思い思いの生活が出来るように支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和と洋を交互にメニューしている。楽しみながら自炊をしたり、利用者さんと職員と一緒に準備や片付けをしている。立位が長く保てない方には座位で出来ることをして頂く等工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量はチェック表に記録し、把握している。体重測定の経過を記録し参考にしている。栄養士であるケアマネージャーが定期的に一人一人の状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ誘導は重症の方では拒否があるが歯科医の導入で解決し、一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、声かけや誘導に工夫してトイレ排泄をして戴いている。個々のパターン・習慣を活かして自立に向けた支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を心身状態から分析したり及ぼす影響を理解し、薬剤依存ではなく飲食やラジオ体操や散歩など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、午後に全員が入浴する。カラスの行水派・ゆっくり派・思い思いが楽しんで入れるよう個々に応じた入浴の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前のひとときは特に安寧が大事なので、日勤者は「行って来ませす」夜勤者は「只今」と声かけし、家族のような雰囲気づくりをし不安を減らし安心して眠れるような工夫をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の使用している薬の目的や副作用を理解し、心身性を大事にし、症状の変化には医療に相談したり、ストレスなどを視野にいれながら適切服薬できるよう確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、楽しい日々を過ごせるように、歌を唄ったり、書道をしたり、一人ひとりの生活歴を重んじ、家事を共同にしながら立場を失わないような配慮しながら支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中、散歩に出掛け足の弱い人は短い距離を歩いている。歩行力のある人は買い物やコンビニへ行ったり、全員で出掛ける（花見）事もあり、家族と協力しながら出掛けるよう支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つ事の大切さを理解している。見当識レベルに応じた所持、使用を行い会計時にさりげなくケアをしているが地域の方は理解していて、自尊心を損なわないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由で家族がかけてきた時などは本人が出ている。手紙のやり取りも出来るように支援しているが年々書字力も落ちてきているが折りにふれ名前を書く、など支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には庭や散歩の時、摘んだ草花を飾り、季節が感じられる居間は明るく開放感がある。大型テレビを前にゆったり座れるソファでくつろいでいます。壁面には利用者の書道作品、日常の様子と行事のスナップ写真などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「居間のソファで」「窓辺にテーブルとイスで」と人が自然に動けるようにしつらえて利用者同士が思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの馴染みの家具や備品を揃えている。タンス・テレビ・ラジカセ・仏壇など家族と話し合い、家族の写真などを飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力は家事機能の中を動機にすると出やすいので台所、洗濯干し、掃除などを共同しながら能力を見つけ出し他のことに及ぶように声かけをして自立度が高まるように工夫している。		

事業所名	グループホーム鎌倉常盤の家
ユニット名	3号館

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員である事業所は、管理者・職員が一体となって理念である「心のお休み処」を共有し、ゆったりとしたフロアづくりを心掛け、実践に繋げている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の道路清掃(会員)、ラジオ体操、懇親会などの地域活動に参加し、商店での買い出しなど日常的に交流している。散歩では、パトロールも兼ね学童を見守りながら地域の一員となっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一般は『理解はしても理解の元で係る』ことは難しい事【言うは易く、行うは難し】であるので夏祭り等のイベントを企画実行し、招待して「どういう風にやるのか」を見ていただいている。【百聞は一見】を実行している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族代表からもサービスの実際が話されている。評価への取組みでは、家族アンケート結果も話し、「一緒に風物を楽しむのはどうか」など貴重な意見もいただける。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	頻回に市の会合はあり、すっかり顔馴染みとなった。介護相談員の来訪では、散歩に同行などして、事業所の取組みを理解して頂いている。質問も頂き、更に協力関係が強まるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関施錠はあるが、身体への拘束は一切行っていない。門は開錠なので、庭内での活動も開放感を持って頂いて、外に出て行く方もいるが見守り、最大限の自由に取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加する事で虐待防止の意識を高めた。身体は当然の事ながら心理面での虐待防止の徹底に努めている。無意識・無自覚の領域でも学び心理的を徹底していきたい。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>他階に利用している人がいて学ぶ機会があり研修でも学んだ。法律は難しいが、必要性を理解し、それらを活用できるケースがあれば支援できる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文書は固いので家でもよく読んでいただいて些細な疑問にも十分説明し、理解を頂くよう努めています。加算などは説明会を開き、同意をえるなど理解や納得を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃の交流では家族的な雰囲気を感じ、言葉だけでなく、表情、行動から不快を感じ、積極的に消化に努め運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護にも入っていて、特に夜勤帯では意見交換の時間が十分あるので、格好の運営共同のための時間となっている。事務室とフロアは繋がっていて日常的に意見交換がある。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は「院内発表会」「発表会の冊子」配布などで院長杯を設けるなど向上の動機を与えている。年中行事の参加費補助や研修費の支給など整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼では感染対策、モラル接遇、ヒヤリハット、理念虐待、拘束などの情報が毎週（月）送られてくる。内外の研修も参加を奨励していて働きながら学びトレーニング出来る仕組みがある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は1/月で定期的に来館し、その他にも祭りの参加、施設訪問など同業者などの活動を通して、良いところを積極的にとりいれるなど質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報収集表を元に本人の生活歴を考慮し、本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。受容・談話構築などで仲間感を抱けるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前情報記入時に家族の希望、要望を聞き関係づくりに努めている。特に初期においては家族の不安もあるので「泊まっていますか」など存分に振舞って頂き信頼関係につとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況と家族の困難を伺い理解した上で援助の種類を伝えている。本人と家族との間に齟齬がある時には橋渡しの役を担い双方の不安をくみとり、共に満足が出来るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ物を見て、同じ物に触れ、食事を共にする事で関係を築いている。入居者と介護者という関係は基本であるが、感覚としては大家族として共に暮している協働関係づくりに励んでいる。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「24時間いつでも連絡ください」「いつでも気軽にいらしてください」を伝える事により職員と家族の壁を無くす努力をしながら本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一般の人への対応は、認知症を理解して頂き、本人の状況を考慮しながら対応し、関係が途切れないよう支援に努めている。共に支える仲間としての関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団では互いが刺激しあっているため、仲間づくりには職員のとっこ等あり腐心しているが、談話構築手段を継続することで、利用者どうしが支え合いの関係となるような支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ市町村内にいるので、どこかで顔を会わす。又、入院退去の場合には入院先に足を運び関係の継続をし、近況報告や雑談も含め、入居時と変わらない支援をしている。（日頃から親しい関係になっているので、契約終了後も変わらない関係）		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の「思い」を感じ取る努力をし、職員間で相談し合い、気持ちを考えている。受容でき関係を築き意向の把握に努力して思いに添える支援をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の言動に理解が及ばない時ほか家族からも再度生活履歴を伺うなどしてサービス利用の経過から了解項はあり、継続して検討しながら馴染みの生活が途切れないよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態を観察し、その人に見合った介護に努めている。日々を現状の把握に努め、その人の有する能力が維持、発展できるような介護に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話し合い、より良く暮らして頂くために現状を把握し、反映した介護計画の作成に努めている。時に関係者は腕を組んでまでエピソードを思い出して下さり、計画は現状に即している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、話し合い、見直しに活かしている。送りノートや介護記録やその他記録のシートがあり、介護計画に反映されている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多様性 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・通院介助・代行など取り組んでいる。考えの硬直は本人、家族だけでなく事業所の力にも巾は生まれないので「柔軟」を旨とした姿勢をとっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	設立7年目ともなると、地域にも存在は浸透し地域資源のありようも見えてきて市や福祉センターのパンフなども身近となり心身共に地域資源と交流的となり本人の楽しみに結びついている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方の希望を伺い、医療側からも「ご都合はどうか」等聞いて頂き、より良い関係を保ちながら担当職員が通院介助を行っている。本人も馴染みの医療と介護職では安心があり、継続支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みとなっていて、よく訪ねて下さるし、相談しやすく利用者が適切な受診、看護を受けられるように親しい関係が反映されている。夏祭りなどでは一緒に踊りを楽しみ、苦言も頂ける。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が病院に足を運び、情報交換や相談に努め、関係づくりを深めている。看護と介護の視点にはズレは必然であるが本人本意であれば容易に合意にいたり、切磋琢磨を心がけている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化」「終末期」の体制が本部に整っているため、家族に体制を伝えている。包括は推進会議のメンバーでもあり、地域の関係者にも体制を説明し、チーム支援になるよう取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はなかなか出来ないが、救急対応マニュアルを職員がしっかりと頭に入れ、「その時」の対応に備えている。競技選手が「本番に弱い」例もあり教訓としている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などして、利用者が避難できることを全職員が身につけ、どの勤務帯の者が誰をどのように避難させるかの会議もおこなっている。深夜帯では各階が協働するきまりがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や私権の尊重は職員では当然の事とし尊受されているが「心身の自由表現を旨としている当館」では利用者間での辛辣言動はいなめないジレンマをもつが加害側の人格も配慮する対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知の方は十分に表現できないので、表情や行動からも思いや希望を感じ取る努力を対応している。「動きは雄弁」であり、「理解」と「解釈」の違いも勉強し、自己決定ができる働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居心地の良い空間作りをし、本人が自分のペースで生活できるように支援している。「快（職員）の奪い合い」の散見が課題であるが「馴染む生活」の中で解決されることもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧など本人の楽しみは職員の楽しみでもあり自由を旨としているが外出着ケアでは緊張を与えてしまう側面があり認知症者の緊張を地域が理解していく過程として工夫している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食や火を囲む集団は「仲間」なので、楽しい会話もよいおかげになっている。一緒に準備をすると片付けの時間も共通の話題で楽しむ仲間の好みや自分の好みになっていき楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取や水分確保は当然の事として一人一人の状態に応じた支援をしている。対応の柔軟さに家族が感嘆されることもあるが栄養を並べても本人の食思が動かなければ何も成らないので、重層的に支援している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>就寝前の義歯預かりの他、歯磨きの見守りをして清潔保持に努めている。口臭は口腔内からや胃腸障害からの方面も考慮にいれてケアをしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンと習慣を知り、トイレ誘導などを行う事で排泄の自立に向けた支援を行っている。失禁したから、と安易にリハビリにするのを避けて手間をかけながら自立に向けた支援をしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便の確認は難しいが、本人の身体状況や食欲などを観察し、運動や受診、水分補給などによる予防に取り組んでいる。心理や精神面からも検討している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は基本的に毎日おこない、本人の希望に合わせて入浴が楽しめる様に支援している。楽しみとしている方は『一番に』だが「一番の順番」などで納得されていて楽しめている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠や安眠を妨げる要因はいろいろであるが、認知の方の世界は独自性がつよく、ストレーサーを把握してよく眠れるような配慮をし居心地のいい時間を提供するように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬剤管理を徹底して行い一人一人の症状変化の確認に努めている。一覧表にして心理面からもサポートすることで医療に相談に行くこともあり医療と介護が協働することで支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「したい」「やりたい」と希望した事を支援をしている。利用者は「家事の主体」でいた方が殆どで9人文化の衝突をどう整えていくか、楽しみが延長できるのか学び乍ら支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身近な所では散歩や外食をし、家族や親しい人と戸外でも楽しめるように支援している。又、近隣への花見などへ行くと近所の方との交流もある。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は混乱などを防ぐ為に職員が本人の希望に合わせて食事、買い物などに同行する際にお渡しするなど混乱を増幅させない範囲で所持、使用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の自由度は確保しているが、家族の困惑からの相談もあり、苦慮の範疇である。書字能力保全のために名前や住所を書く、読むなどを生活の中に織り込んで支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	摘んできた草花で季節を採り入れ、外気との温度差も少なくし、スナップ写真などで共用空間の居心地作りに心がけている。快（不快）も個性的であり苦慮もある。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を考え、居心地の良い空間作りを心掛けている。歴史や文化が違う9人の仲間づくりは簡単ではなく調整ばかりでも混乱するので配慮の最項目でもある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込み、写真を飾り、好みを活かして居心地よく過ごされている。仏さまを持たれている方にお仲間が散歩で野草をつみ「仏様に」の交流もみられている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることやわかる事を増やしていくには職員誘導より存外、機能を保持している方をみて「やってみよう」ということから出来ることもあり「百聞は一見」など工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	自己評価及び外部評価の結果や目標達成計画の内容も報告し、事業所内をさらに理解して頂き、相互の協力関係の構築に向けた理解者を増やしていくことも期待します。	運営推進会議にて報告、検討していく。	次回の運営推進会議の議題は震災についてと決定している為、次々回の会議にて報告し理解を深めていく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。